

- 1 三重の子どもたちの現状1
 - ・三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果
 - ・三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」
 - ・三重県「平成29年度スマートフォン等の使用に関する実態調査結果（概要）」
 - ・ベネッセ「2018スタディーサポート」調査結果
 - ・三重県「みえの子ども白書2016」（三重県子ども条例に基づく調査の結果概要）
 - ・三重県「平成28年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果【概要】

- 2 これからの時代に求められる力28
 - ・「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編」（平成29年7月文部科学省）
 - ・「高等学校学習指導要領解説総則編」（平成30年7月文部科学省）
 - ・「Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇話会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース」（平成30年6月5日文部科学省）

- 3 これからの時代の学校35
 - ・「Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇話会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース」（平成30年6月5日文部科学省）

1 三重の子どもたちの現状

(1) 学力（「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査の結果）

①平均正答率

<小学校>

	H27		H28		H29		H30	
	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県
国語A	70.0	68.0	72.9	71.7	74.8	73.6	70.7	70.1
	<-2.0>		<-1.2>		<-1.2>		<-0.6>	
国語B	65.4	65.3	57.8	58.1	57.5	57.0	54.7	53.6
	<-0.1>		<+0.3>		<-0.5>		<-1.1>	
算数A	75.2	74.8	77.6	78.3	78.6	77.4	63.5	62.8
	<-0.4>		<+0.7>		<-1.2>		<-0.7>	
算数B	45.0	44.1	47.2	47.1	45.9	44.6	51.5	50.1
	<-0.9>		<-0.1>		<-1.3>		<-1.4>	
理科	60.8	59.2					60.3	58.8
	<-1.6>						<-1.5>	

<中学校>

	H27		H28		H29		H30	
	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県
国語A	75.8	75.0	75.6	74.4	77.4	76.9	76.1	75.3
	<-0.8>		<-1.2>		<-0.5>		<-0.8>	
国語B	65.8	64.3	66.5	64.3	72.2	70.7	61.2	59.7
	<-1.5>		<-2.2>		<-1.5>		<-1.5>	
数学A	64.4	64.3	62.2	62.2	64.6	65.3	66.1	66.6
	<-0.1>		<0.0>		<+0.7>		<+0.5>	
数学B	41.6	40.6	44.1	43.2	48.1	47.3	46.9	45.7
	<-1.0>		<-0.9>		<-0.8>		<-1.2>	
理科	53.0	51.9					66.1	66.0
	<-1.1>						<-0.1>	

※< >内の数値は、全国との差を示す。
(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

○10教科中9教科で全国の平均正答率を下回りました。中学校では数学Aで全国の平均正答率を上回りました。

②平均正答率の推移（平成27年度小6→平成30年度中3の同一児童生徒での比較）

国A	小6 (H27)	: -2.0	中3 (H30)	: -0.8	伸び	+1.2
国B	小6 (H27)	: -0.1	中3 (H30)	: -1.5	伸び	-1.4
算・数A	小6 (H27)	: -0.4	中3 (H30)	: +0.5	伸び	+0.9
算・数B	小6 (H27)	: -0.9	中3 (H30)	: -1.2	伸び	-0.3
理	小6 (H27)	: -1.6	中3 (H30)	: -0.1	伸び	+1.5

※各数値は、全国の平均正答率との差を示す。なお、伸びの数値は中H30-小H27を示す。
(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の調査結果より)

○中学校3年生は、小学校6年生時の調査（平成27年度）から、5教科中3教科（国語A、数学A、理科）で改善しました。

③平均無解答率

小学校	H27	H28	H29	H30
国語A	3.34(-0.22)	5.05(-0.24)	2.26(-0.51)	2.98(-0.53)
国語B	6.11(0.02)	4.38(-0.24)	4.32(0.01)	3.89(+0.13)
算数A	1.66(-0.13)	1.48(-0.31)	1.44(-0.15)	2.03(-0.45)
算数B	9.64(0.52)	7.08(-0.29)	6.64(0.22)	8.26(+0.33)
理科	3.26(-0.05)	—	—	1.23(+0.02)

※ () の数値は、全国の平均無解答率との差を示す。

中学校	H27	H28	H29	H30
国語A	2.40(-0.17)	1.92(-0.13)	2.01(-0.42)	2.89(-0.26)
国語B	2.29(0.06)	4.46 (0.07)	3.72(-0.08)	3.01(0.00)
数学A	3.24(-0.48)	5.62(-0.68)	5.39(-0.86)	2.84(-0.44)
数学B	14.85(-0.49)	13.95(-0.74)	10.95(-0.76)	11.55(-1.06)
理科	6.70(-0.28)	—	—	4.96(-0.08)

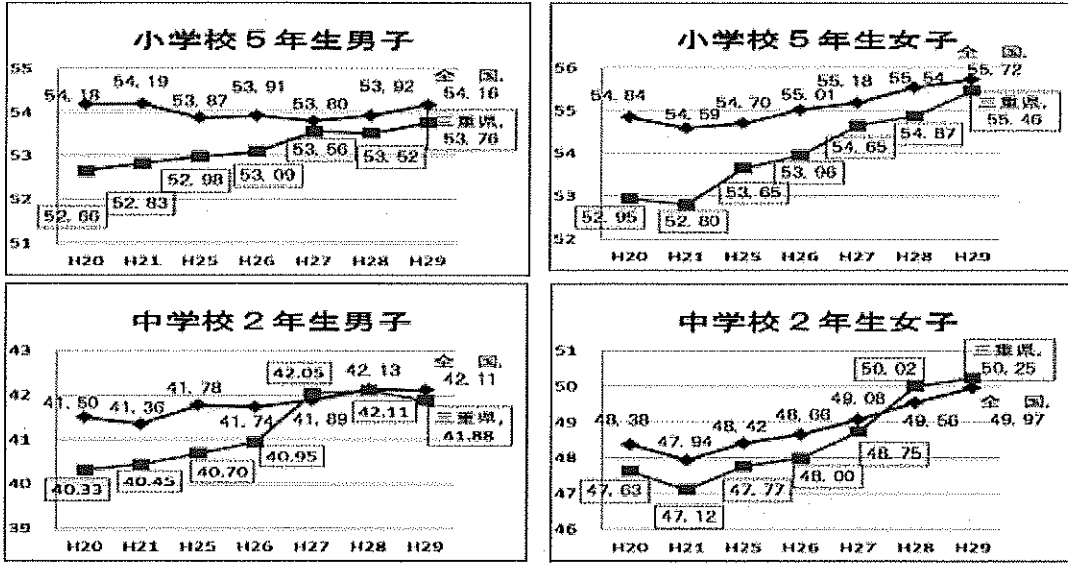
※ () の数値は、全国の平均無解答率との差を示す。
(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

○10 教科中6教科（小学校：国語A、算数A、中学校：国語A、数学A、数学B、理科）で全国の平均無解答率を下回りました（全国よりも良好な水準）。

(2) 体力

①平成20年度以降の全員を対象とした調査の体力合計点経年変化

※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響で中止のため、除外



②実技に関する調査結果

【小学校第5学年の平均値】

調査種目	男子			女子		
	H29年度 三重県	H29年度 全国	H28年度 三重県	H29年度 三重県	H29年度 全国	H28年度 三重県
握力 (kg)	16.43	16.51	16.44	16.27	16.12	16.08
上体起こし (回)	↑19.11	19.92	19.03	↑18.19	18.81	17.77
長座体前屈 (cm)	↓32.85	33.15	32.89	↓37.03	37.43	37.10
反復横とび (点)	↓42.33	41.95	42.54	↓40.61	40.06	40.74
20mシャトルラン(回)	↑52.01	52.24	51.17	↑40.90	41.62	39.42
50m走 (秒)	↑9.42	9.37	9.47	↑9.65	9.60	9.72
立ち幅とび (cm)	↑150.50	151.71	149.84	↑144.80	145.47	143.68
ソフトボール投げ(m)	↑22.49	22.53	22.29	↓14.20	13.94	14.13
体力合計点※ (点)	↑53.76	54.16	53.52	↑55.46	55.72	54.87

■: 全国平均を上回る ↑: 平成28年度三重県平均を上回る ↓: 平成28年度三重県平均を下回る

※体力合計点: 各調査種目の成績を1点から10点に得点化して総和した合計得点

【中学校第2学年の平均値】

調査種目	男子			女子		
	H29年度 三重県	H29年度 全国	H28年度 三重県	H29年度 三重県	H29年度 全国	H28年度 三重県
握力 (kg)	28.60	28.89	28.64	23.70	23.82	23.69
上体起こし (回)	↑26.96	27.45	26.91	↑23.43	23.73	23.03
長座体前屈 (cm)	↓43.06	43.20	42.31	↓45.14	45.86	45.03
反復横とび (点)	↓52.37	51.89	52.42	↓47.38	46.76	47.40
持久走 (秒)	↑395.89	391.23	397.38	292.05	287.36	289.19
20mシャトルラン(回)	↓85.34	85.99	85.75	↓58.83	59.14	60.12
50m走 (秒)	↑8.04	7.99	8.07	↑8.87	8.80	8.88
立ち幅とび (cm)	↓193.77	194.54	194.60	↓169.17	168.57	169.36
ハンドボール投げ(m)	↓20.66	20.56	20.43	↓13.31	12.96	13.24
体力合計点※ (点)	↓41.88	42.11	42.11	↓49.76	49.97	50.02

■: 全国平均を上回る ↑: 平成28年度三重県平均を上回る ↓: 平成28年度三重県平均を下回る

※体力合計点: 各調査種目の成績を1点から10点に得点化して総和した合計得点

(三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より)

○中学校女子の体力合計点は、昨年に引き続き全国平均を上回りましたが、中学校男子および小学校男子・女子については、ともに全国平均値を上回ることができませんでした。しかし、小学校男子・女子、中学校女子については、過去最高値を示すなど、体力向上に係る取組の成果が表れてきています。

○種目別の全国平均値との比較では、小学校男子は8種目中2種目、小学校女子は8種目中3種目、中学校男子は9種目中2種目、中学校女子は9種目中4種目が上回り、あわせて34種目中11種目が上回りました。(昨年度は34種目中13種目が上回りました。)

(3) 基本的生活習慣

①朝食、就寝、起床時刻等

項目	結果				
・朝食を毎日食べる 【児童生徒質問紙】	・<朝食>肯定的な回答				
		H27	H28	H29	H30
	児童質問紙(小)	95.3(-0.3)	95.7(0.2)	95.4(0.0)	94.7(0.2)
	生徒質問紙(中)	93.1(-0.4)	93.8(0.5)	93.6(0.4)	92.0(0.1)
・毎日、同じくらいの時刻に寝る 【児童生徒質問紙】	・<就寝>肯定的な回答				
		H27	H28	H29	H30
	児童質問紙(小)	79.0(-0.5)	80.2(0.1)	79.3(-0.5)	75.1(-1.9)
	生徒質問紙(中)	75.3(0.1)	75.6(0.4)	75.7(0.1)	74.0(-0.2)
・毎日、同じくらいの時刻に起きる 【児童生徒質問紙】	・<起床>肯定的な回答				
		H27	H28	H29	H30
	児童質問紙(小)	90.7(-0.3)	91.4(0.6)	91.1(-0.1)	88.3(-0.5)
	生徒質問紙(中)	91.9(-0.2)	92.7(0.4)	92.0(-0.4)	89.6(-0.7)
・朝食を食べることについては、児童生徒ともに全国を上回っていますが、就寝時刻、起床時刻については、全国を下回っていて、改善が見られません。					

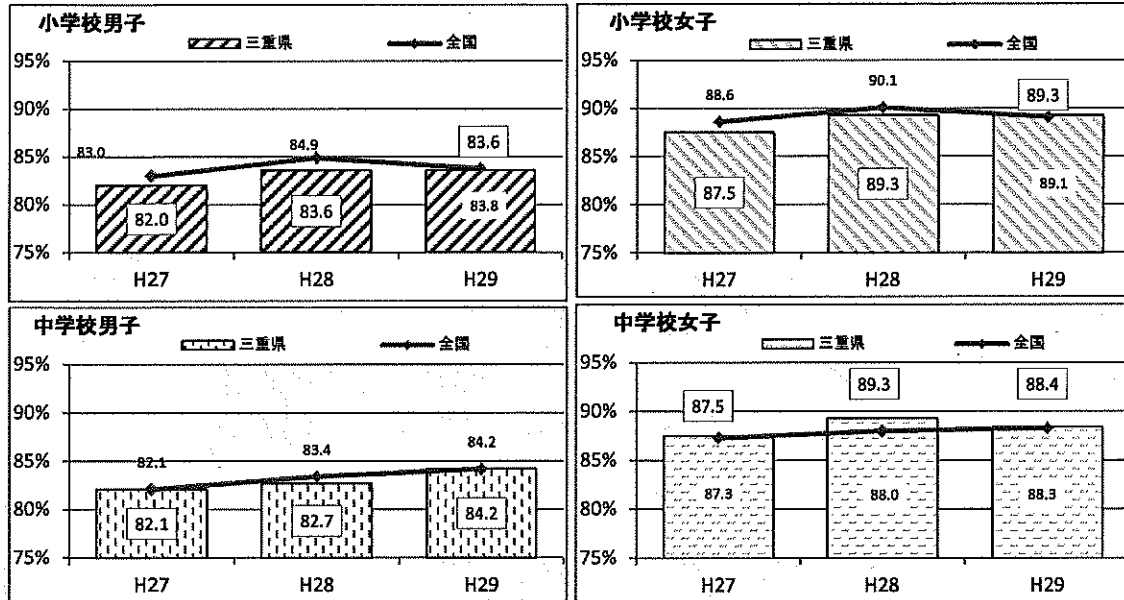
※ () 内の数値は全国との差を示す。

(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

②睡眠時間に関する意識

あなたが健康であるために、よく寝ることは、どのくらい大切だと考えていますか。

(大切と答えた割合：4択：大切、やや大切、あまり大切ではない、大切ではない)

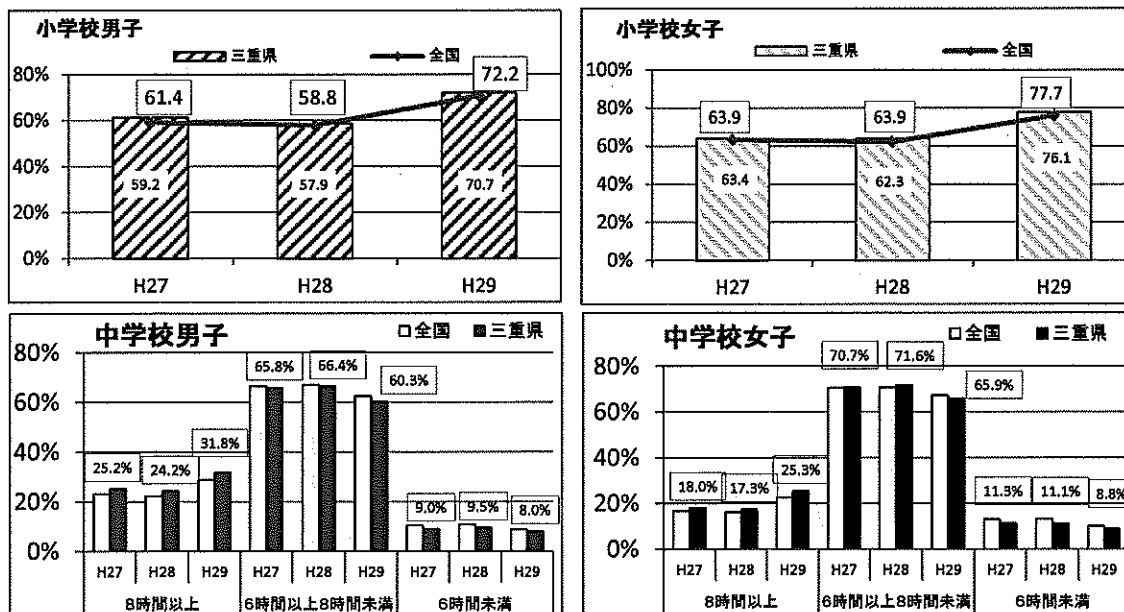


(三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より)

○睡眠に対する意識は、中学生男子において向上がみられました。

毎日どのくらい寝ていますか。

(小学生は、8時間以上寝ていると答えた割合。)

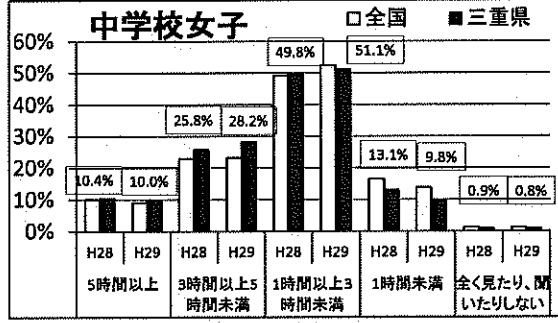
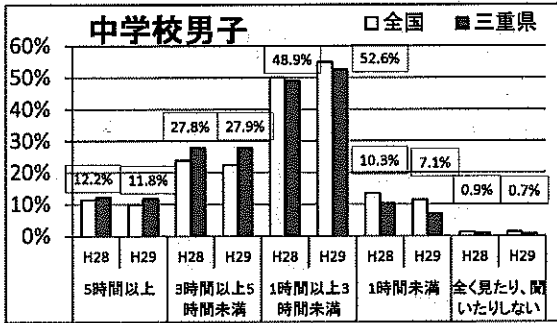
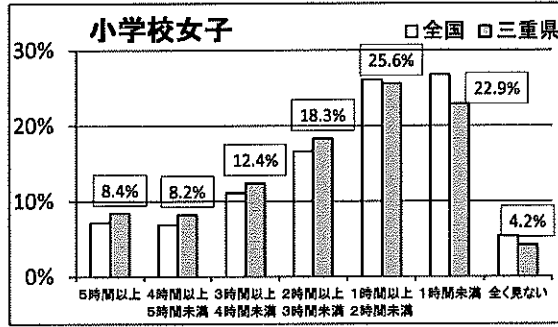
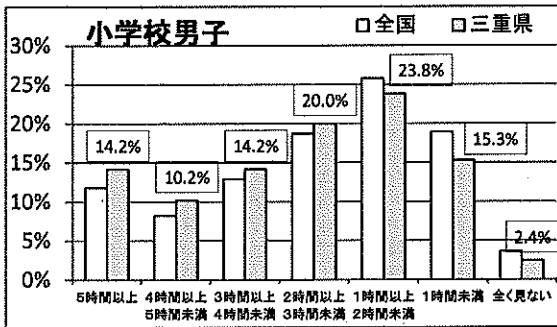


(三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より)

○8時間以上寝ている割合は、小中学生において改善しました。

③メディア（テレビ、DVD、スマートフォン、パソコン等）との関わり

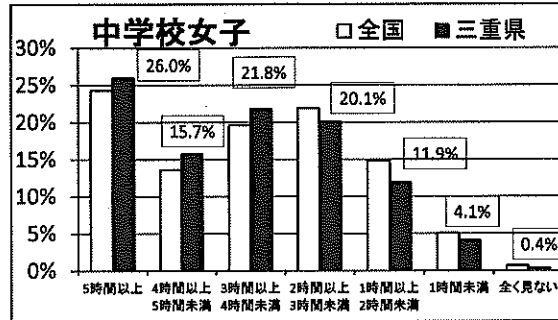
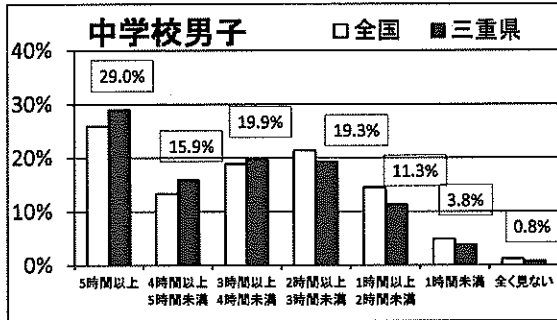
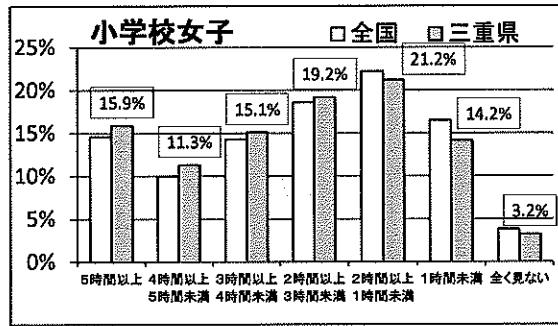
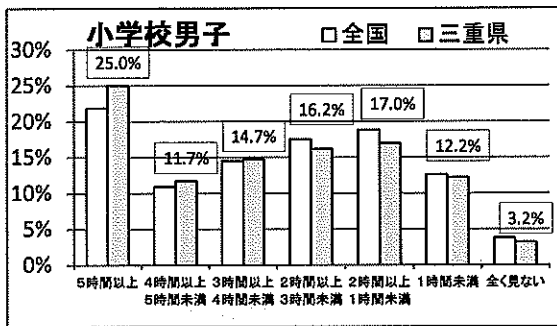
平日（月から金曜日）、学校から帰った後、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。



(三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より)

- 小学生は、2時間以上で全国平均値より高い割合になっています。
- 中学生は、3時間以上で全国平均値より高い割合になっています。

学校が休みの日（土曜日や日曜日）に、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。



(三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より)

- 小学生は、男子は2時間以上、女子は3時間以上で全国平均より高い割合になりました。
- 中学生は、男女ともに3時間以上で全国平均より高くなっています。
- 小学生・中学生ともに、5時間以上と答えた割合が高い状況です。

④スマートフォン等の使用に関する実態・意識

(三重県「平成29年度 スマートフォン等の使用に関する実態調査結果(概要)」より)

1) ケータイの所持率

	H26	H29	増減 (ポイント)
小学校	39.9%	50.3%	10.4
中学校	60.9%	73.2%	12.3
高等学校	99.1%	99.2%	0.1

○小学生で約5割、中学生で約7割、高校生ではほぼ10割でした。前回と比較すると、小中学生では増加し、高校生ではほぼ同様となっています。

2) ケータイを持ち始めた時期

	小学校			中学校			高等学校		
	H26	H29	増減 (ポイント)	H26	H29	増減 (ポイント)	H26	H29	増減 (ポイント)
小学校4年生	22.4%	23.2%	0.8	6.3%	6.7%	0.4	5.5%	3.5%	-2.0
中学校1年生	—	—	—	38.5%	36.1%	-2.4	20.6%	24.7%	4.1
小学校3年生までの割合	54.2%	56.9%	2.7	12.2%	8.3%	-3.9	6.9%	8.3%	1.4

○小学生は4年生、中高生は中学校1年生が最も多くなっています。また、小学校3年生までにケータイを持ち始めた児童生徒の割合は、中高生が約1割であるのに対し、小学生は約5割と、ケータイ所持の低年齢化が進んでいます。

3) ケータイの使用状況

	小学校			中学校			高等学校		
	H26	H29	増減 (ポイント)	H26	H29	増減 (ポイント)	H26	H29	増減 (ポイント)
動画サイト (YouTubeなど)	33.0%	63.1%	30.1	60.2%	77.9%	17.7	56.6%	68.3%	11.7
LINE	27.6%	42.0%	14.4	76.1%	88.0%	11.9	86.8%	87.0%	0.2
Twitter	4.1%	6.9%	7.0	28.2%	35.8%	11.3	56.5%	67.3%	13.4
Facebook		4.2%			3.7%			2.6%	
Instagram	—	5.9%	—	—	21.1%	—	—	47.1%	—

○動画サイト (YouTube等) やSNS (LINE、Twitter等) の利用が、全校種で前回より増加しています。SNSの普及に伴い、新たに選択肢として追加したInstagramは、高校生の約5割が利用しています。

4) ケータイの平均的な使用時間

	小学校			中学校			高等学校		
	H26	H29	増減 (ポイント)	H26	H29	増減 (ポイント)	H26	H29	増減 (ポイント)
2時間以上の割合	14.2%	24.9%	10.7	45.7%	48.4%	2.7	69.0%	74.1%	5.1

○ケータイを1日に2時間以上使用している児童生徒は、小学生で約2割、中学生で約5割、高校生で約7割となっています。前回と比較すると、全校種で使用時間が増加しています。

(4) 子どもたちの家庭における学習習慣・読書習慣

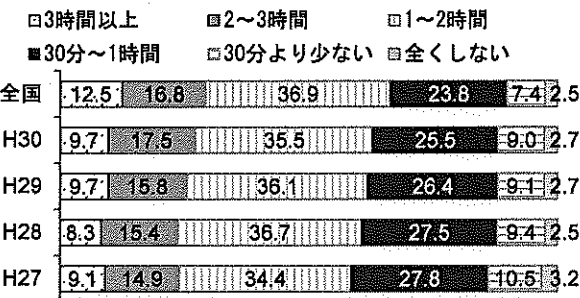
①平日の学習時間（1時間以上）

	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	58.4(-4.3)	60.4(-2.1)	61.6(-2.8)	62.7(-3.5)
生徒質問紙(中)	66.5(-2.5)	65.2(-2.7)	66.5(-3.1)	67.5(-3.1)

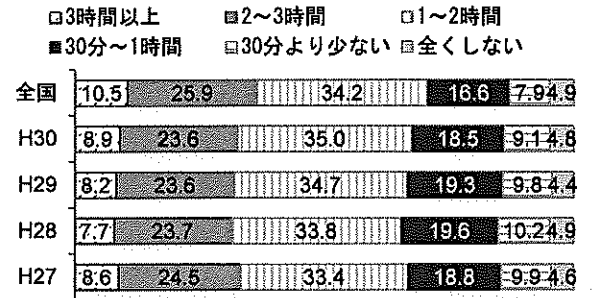
※各数値は、「1時間以上している」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

【小学校】

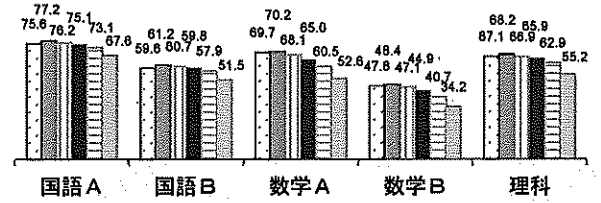
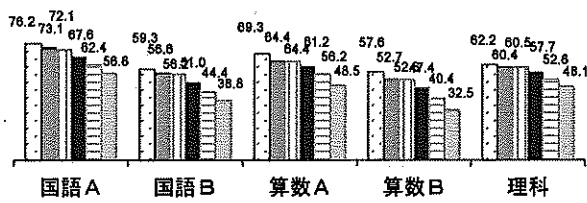
回答割合 *各年度の帯グラフは本県の状況



【中学校】



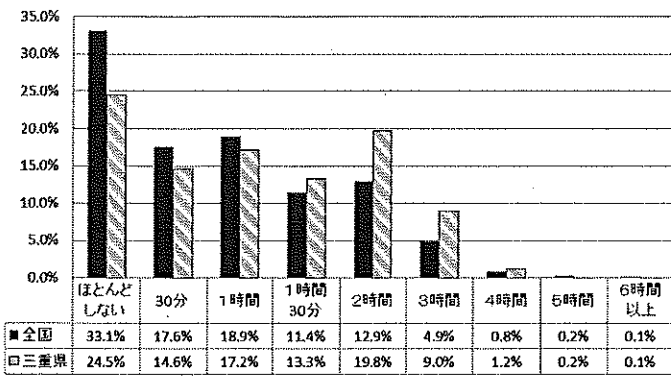
選択肢毎の平均正答率



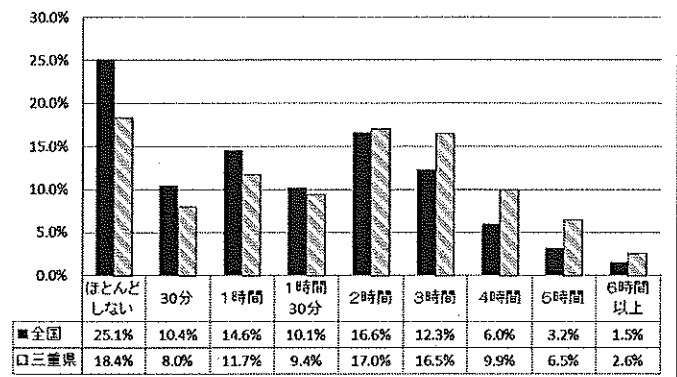
(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

○小中学校ともに、平成27年度以降、全国を下回っています。小学校では、昨年度と比較すると、全国との差が広がっています。また、小中学校ともに、学習習慣（小学校：1時間以上、中学校：1～3時間）が確立されている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。

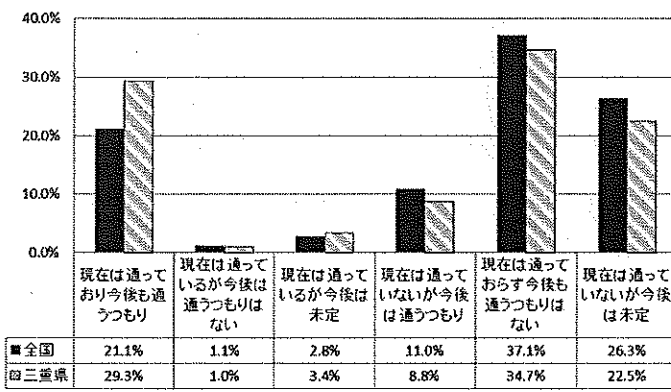
平日の学習時間(高校2年生)



休日の学習時間(高校2年生)



予備校・塾について(高校2年生)



(ベネッセ「2018 スタディサポート」調査結果より)

- 高校生の平日の学習時間は全国、三重県ともに1時間以内が50%を超えています。
- 三重県は、学習時間が2時間または3時間との回答が平日、休日ともに全国を上回りました。
- 予備校・塾に「現在は通っており今後も通うつもり」と回答した生徒の割合は、三重県が全国より高くなっています。
- 予備校・塾に「現在は通っておらず今後も通うつもりはない」と回答した生徒の割合は、全国、三重県ともに最も多くなりました。

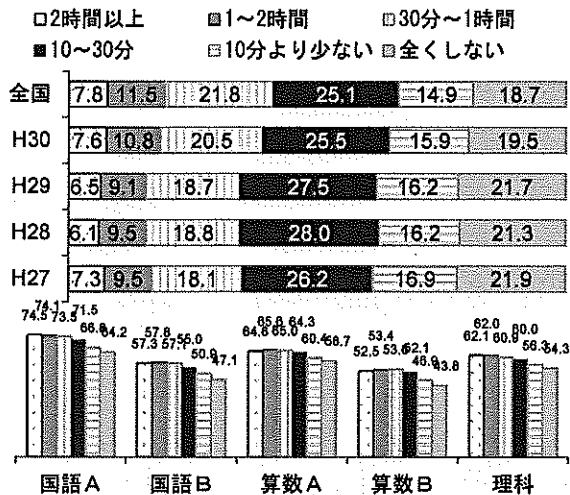
②読書習慣

【授業時間以外の読書時間（平日10分以上）】

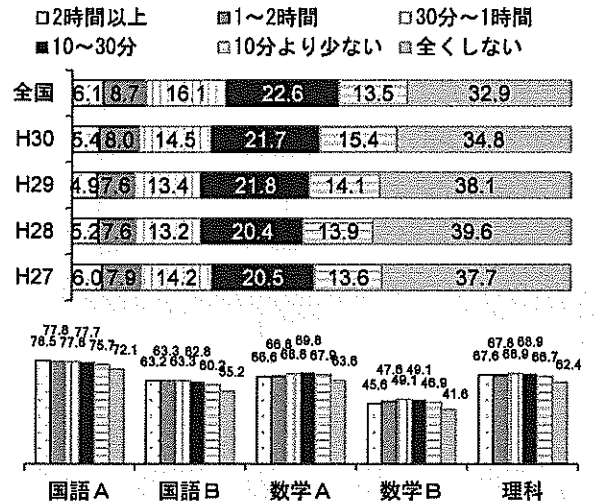
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	61.1(-3.1)	62.4(-1.1)	61.8(-1.5)	64.4(-1.8)
生徒質問紙(中)	48.6(-3.6)	46.4(-3.3)	47.7(-3.7)	49.6(-3.9)

※各数値は、「10分以上読んでいる」の回答割合を示す。()の数値は、全国の回答割合との差を示す。

【小学校】

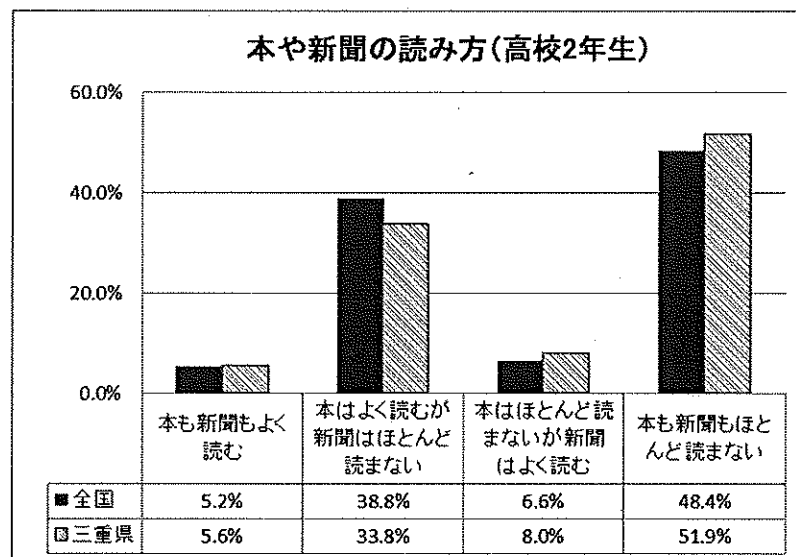


【中学校】



(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

○小中学校ともに、平成27年度以降、全国を下回っています。また、小中学校ともに、読書習慣（小中学校とも10分以上）が確立されている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。



(ベネッセ「2018スタディサポート」調査結果より)

○三重県では、「本も新聞もほとんど読まない」高校生の割合が全国を3.5ポイント上回っています。
○全国、三重県ともに「本も新聞もほとんど読まない」、「本はよく読むが新聞はほとんど読まない」と回答した高校生が多くなっています。

(5) 放課後の過ごし方

①放課後の過ごし方

※ () の数値は、全国との差を示す

	選択肢	H29	H30
児童質問紙(小)	1: 家で勉強や読書をしている	58.0(-2.9)	60.8(-3.3)
	2: 放課後子ども教室や放課後児童クラブ(学童保育)に参加している	6.4(0.2)	7.3(0.3)
	3: 地域の活動に参加している	3.0(-0.3)	5.8(-0.3)
	4: 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	30.9(1.3)	33.0(0.8)
	5: 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている	47.8(5.4)	50.7(4.2)
	6: スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	43.2(-1.9)	47.0(-0.2)
	7: 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている	74.7(2.1)	83.0(2.0)
	8: 家族と過ごしている	63.1(1.4)	68.6(1.5)
	9: 友達と遊んでいる	74.8(3.1)	78.0(3.5)
生徒質問紙(中)	1: 学校の部活動に参加している	88.0(6.2)	88.0(5.8)
	2: 家で勉強や読書をしている	37.2(-2.2)	40.6(-1.6)
	3: 地域の活動に参加している	1.6(0.1)	2.7(0.4)
	4: 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	42.7(2.7)	44.7(2.6)
	5: 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている	17.4(2.3)	20.4(2.7)
	6: スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	19.7(1.3)	22.2(0.6)
	7: 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている	71.5(2.7)	80.3(3.0)
	8: 家族と過ごしている	47.4(3.2)	53.5(3.3)
	9: 友達と遊んでいる	36.8(3.4)	42.7(5.8)

(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

○小学校では、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしていると回答した割合が最も高く、中学校では、学校の部活動に参加していると回答した割合が最も高く、次いで、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしていると回答した割合が高くなっています。

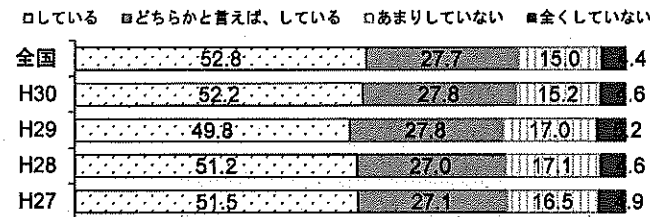
②家の人との対話（学校での出来事について）

	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	78.6(-0.9)	78.2(-1.0)	77.6(-0.5)	80.0(-0.5)
生徒質問紙(中)	73.4(-0.3)	73.7(-0.4)	74.0(-0.3)	75.4(-0.6)

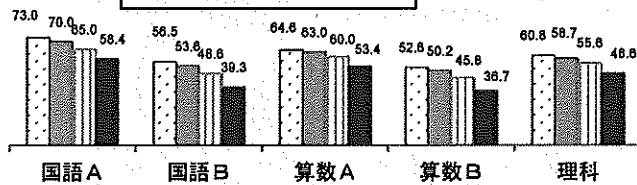
※各数値は、肯定的回答割合を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

【小学校】

回答割合 *各年度の帯グラフは本県の状況

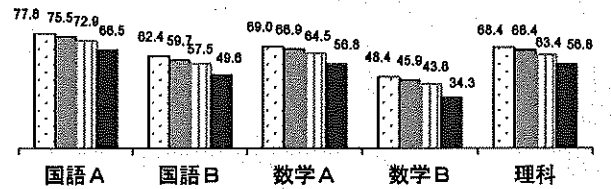
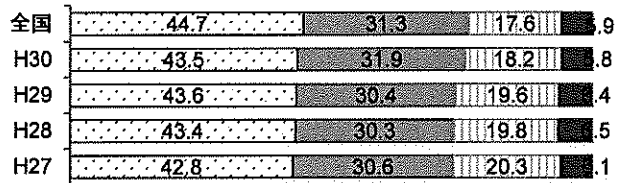


選択肢毎の平均正答率



【中学校】

口している 口どちらかと言えば、している 口あまりしていない 口全くしていない



(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

○「家の人と学校での出来事について話をする」との質問に、肯定的に回答した中学生の割合は増加しています。対話をしている児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率には、大きな差が見られます。

(6) 地域とのかかわり

①児童生徒の地域行事への参加

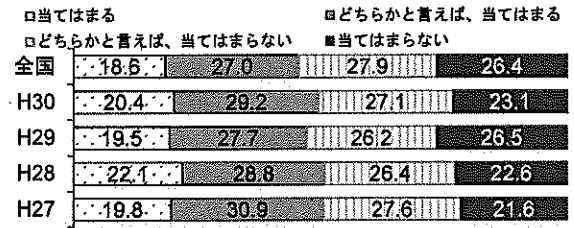
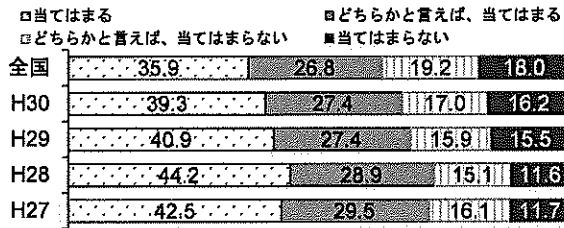
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	72.0(5.1)	73.1(5.2)	68.3(5.7)	66.7(4.0)
生徒質問紙(中)	50.7(5.9)	50.9(5.7)	47.2(5.1)	49.6(4.0)

※各数値は、肯定的回答割合を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

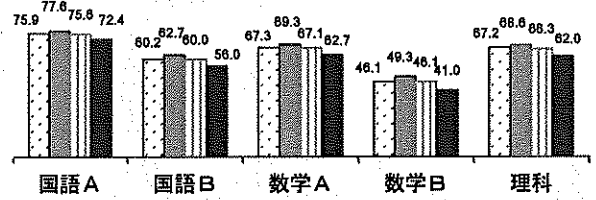
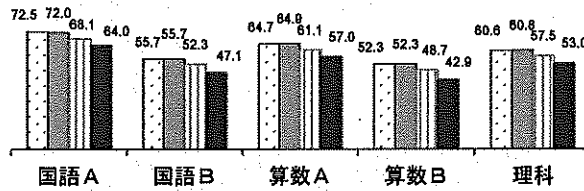
【小学校】

【中学校】

回答割合 *各年度の帯グラフは本県の状況



選択肢毎の平均正答率



(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

○児童生徒の地域行事への参加は、全国と比較して引き続き上回る状況にあります。(児童は、減少傾向が見られます。)

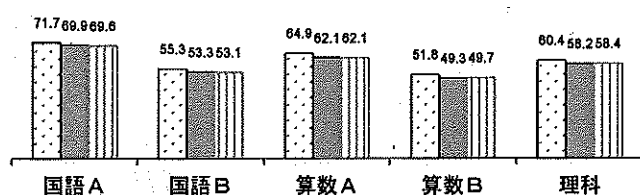
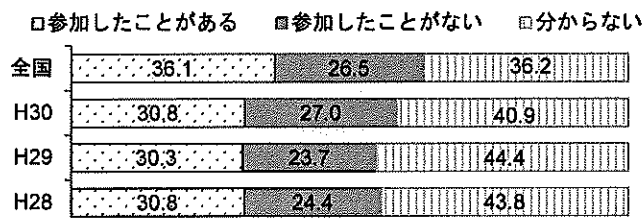
○地域行事への参加について肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。

②児童生徒のボランティア活動への参加 H28から復活

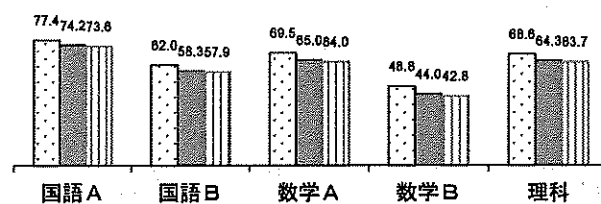
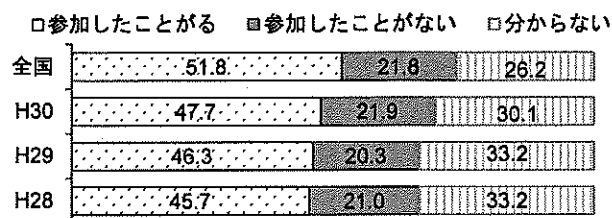
	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	30.8(-5.4)	30.3(-5.1)	30.8(-5.3)
生徒質問紙(中)	45.7(-3.0)	46.3(-3.4)	47.7(-4.1)

※各数値は、肯定的回答割合を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

【小学校】



【中学校】

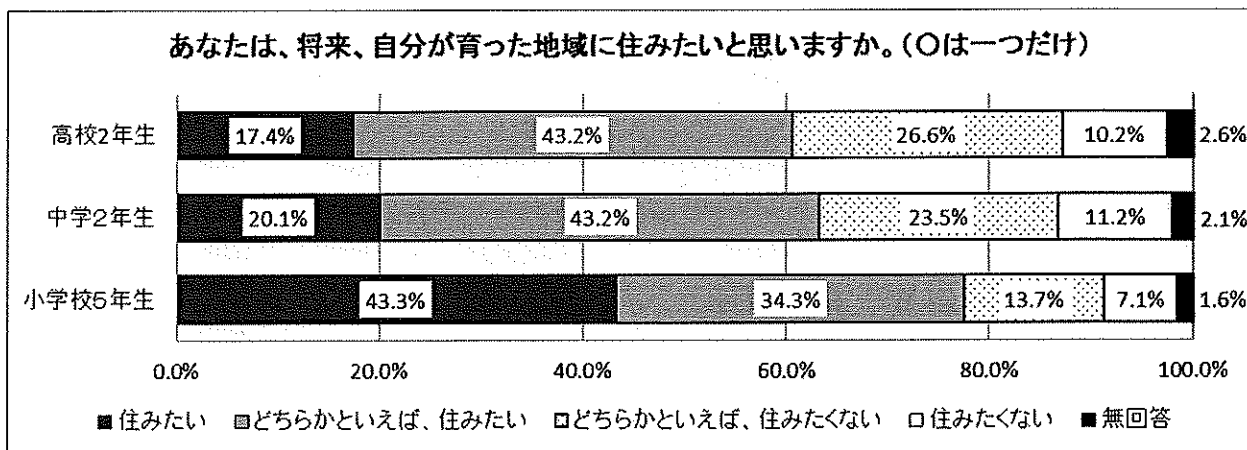


(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

○地域社会でのボランティア活動への参加は、全国と比較して下回る状況が続いています。
(生徒は、増加傾向が見られます。)

○ボランティア活動に参加したことがあると回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。

②住んでいる地域への意識



(三重県「みえの子ども白書 2016 (三重県子ども条例に基づく調査の結果概要)」より)

○「あなたは、将来、自分が育った地域に住みたいと思いますか」という質問に対して、「住みたい」「どちらかといえ、住みたい」と答えた小学生は77.6%、中学生は63.3%、高校生は60.6%となっており、小学生ほど高い傾向が見られます。

あなたは、住んでいる地域でどんなことに取り組んでみたいと思いますか。
(〇はいくつでも)

項目	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	回答数(人)	比率(%)	回答数(人)	比率(%)	回答数(人)	比率(%)
地域の歴史や文化について勉強する	312	25.2	247	16.1	70	6.3
農業、漁業、伝統工芸など、地域の産業を体験する	354	28.6	284	18.5	90	8.2
地域の大人と意見交換などをする	69	5.6	96	6.3	45	4.1
地域の行事を計画する	218	17.6	253	16.5	115	10.4
地域のスポーツクラブやサークルで活動する	274	22.2	368	24.0	250	22.7
お年寄りや遊びなどで交流する	253	20.5	158	10.3	48	4.4
異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする	398	32.2	397	25.9	191	17.3
町の美化活動をする	215	17.4	257	16.8	118	10.7
防災活動など地域の安全を守るための活動をする	213	17.2	190	12.4	70	6.3
いろいろな国の人と交流する	254	20.6	218	14.2	79	7.2
その他	36	2.9	33	2.2	13	1.2
特にしたいことはない	311	25.2	492	32.1	441	40.0
無回答	30	2.4	43	2.8	53	4.8
回答数	1,236	100.0	1,533	100.0	1,103	100.0
総回答数	4,173	337.6	4,569	298.0	2,686	243.5

(三重県「みえの子ども白書 2016」(三重県子ども条例に基づく調査の結果概要)より)

○「住んでいる地域で、どんなことに取り組んでみたいと思いますか」という質問に対して、「異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする」と答えた小学生は32.2%となっており、最も高くなっています。一方、「特にしたいことはない」と答えた中学生は32.1%、高校生は40.0%となっており、最も高くなっています。

(7) 自尊感情等

①自分にはよいところがある

	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	75.1(-1.3)	75.5(-0.8)	77.4(-0.5)	83.4(-0.6)
生徒質問紙(中)	69.4(1.3)	71.3(2.0)	73.2(2.5)	79.9(1.1)

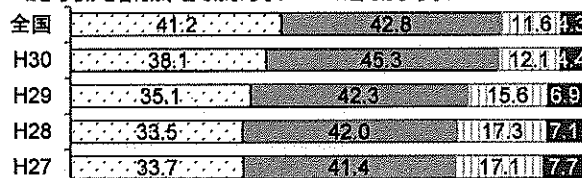
※各数値は、肯定的回答割合を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

【小学校】

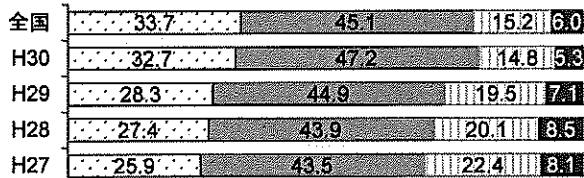
【中学校】

回答割合 *各年度の帯グラフは本県の状況

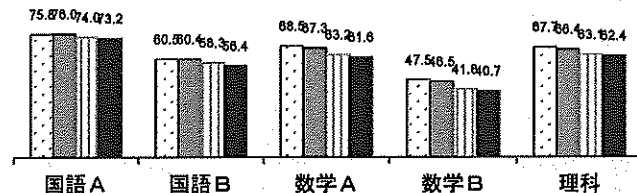
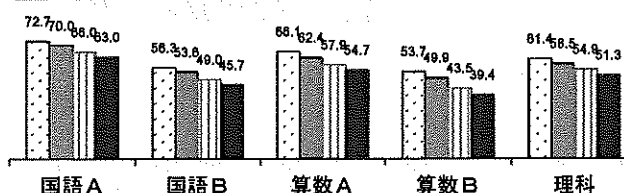
□当てはまる □どちらかと言えば、当てはまる
 □どちらかと言えば、当てはまらない ■当てはまらない



□当てはまる □どちらかと言えば、当てはまる
 □どちらかと言えば、当てはまらない ■当てはまらない



選択肢毎の平均正答率



(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

○子どもの自尊感情に関する「自分には、よいところがある」の肯定的な回答の割合が、年々高くなっています。また、意欲的に学習しようとする児童生徒の割合は、全国と比較して引き続き上回る状況にあります。

②学習に対する興味・関心(算数・数学)

ア 新しい問題を解いてみたい、できるようになりたい

	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	78.1(0.6)	78.0(2.2)	76.8(1.1)	75.6(1.3)
生徒質問紙(中)	92.0(0.5)	91.9(0.6)	92.3(1.1)	93.1(0.6)

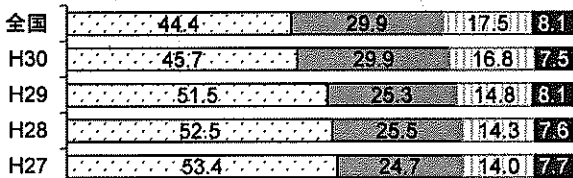
※各数値は、肯定的回答割合を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

【小学校】

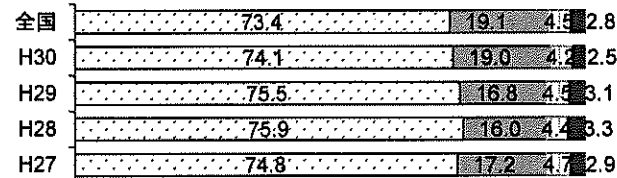
【中学校】

回答割合 *各年度の帯グラフは本県の状況

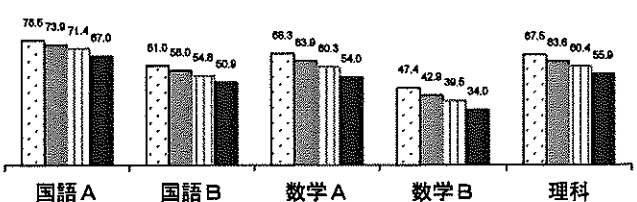
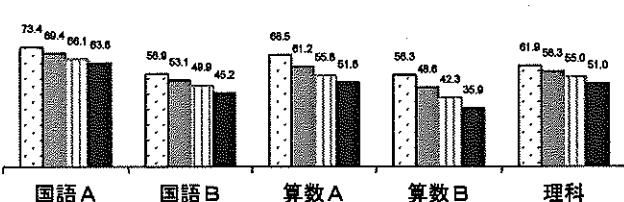
□当てはまる □どちらかと言えば、当てはまる
 □どちらかと言えば、当てはまらない ■当てはまらない



□当てはまる □どちらかと言えば、当てはまる
 □どちらかと言えば、当てはまらない ■当てはまらない



選択肢毎の平均正答率



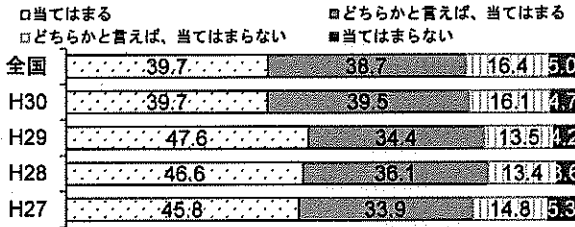
(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

イ 諦めずに方法を考える

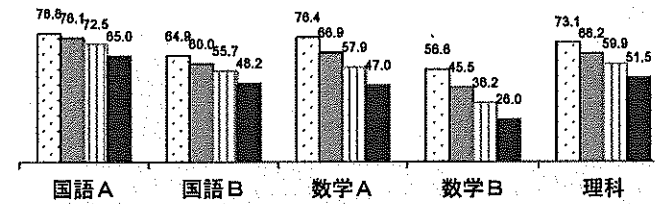
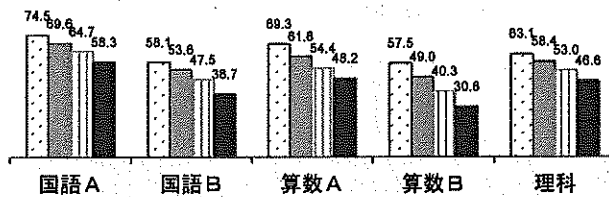
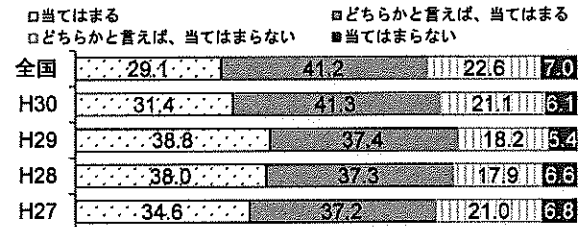
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	79.7(0.1)	82.7(1.7)	82.0(0.9)	79.2(0.8)
生徒質問紙(中)	71.8(2.0)	75.3(3.2)	76.2(2.7)	72.7(2.4)

※各数値は、肯定的回答割合を示す。()の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

【小学校】

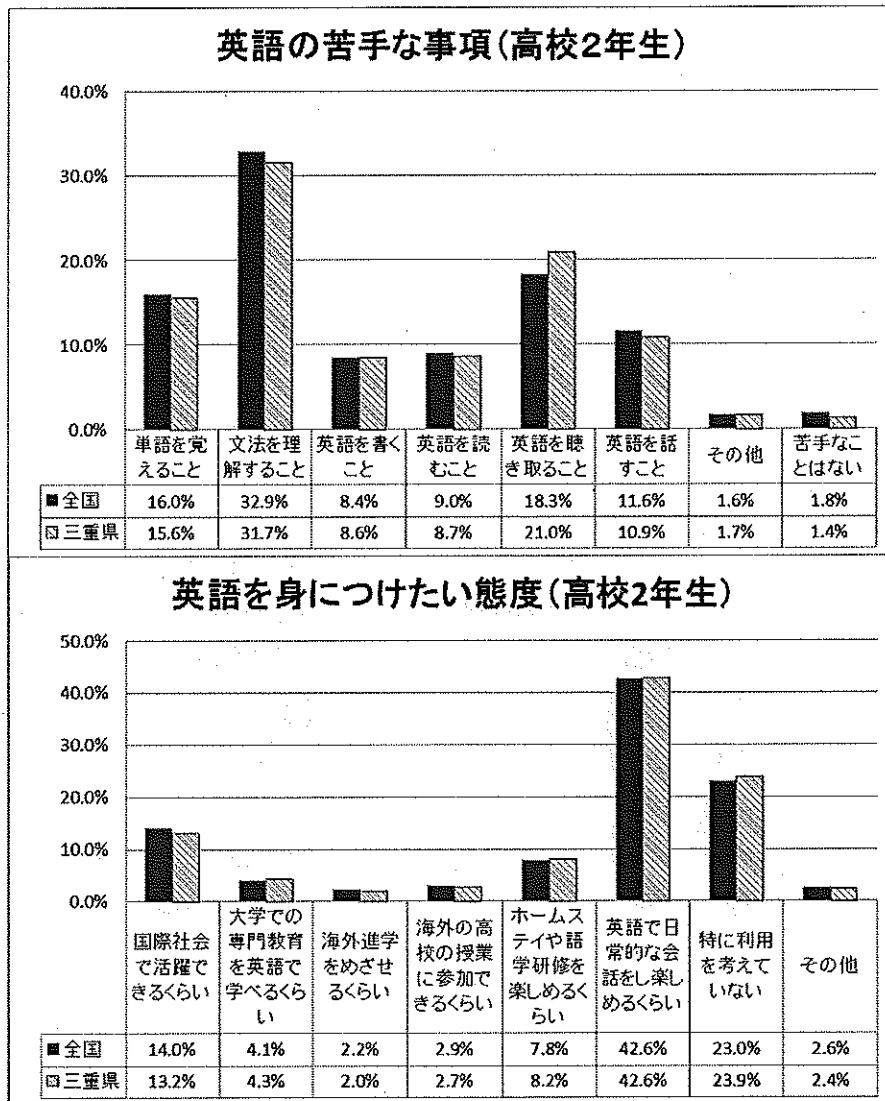


【中学校】



(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

○自尊心や学習に対する興味・関心(チャレンジ、あきらめない)の設問において、肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。



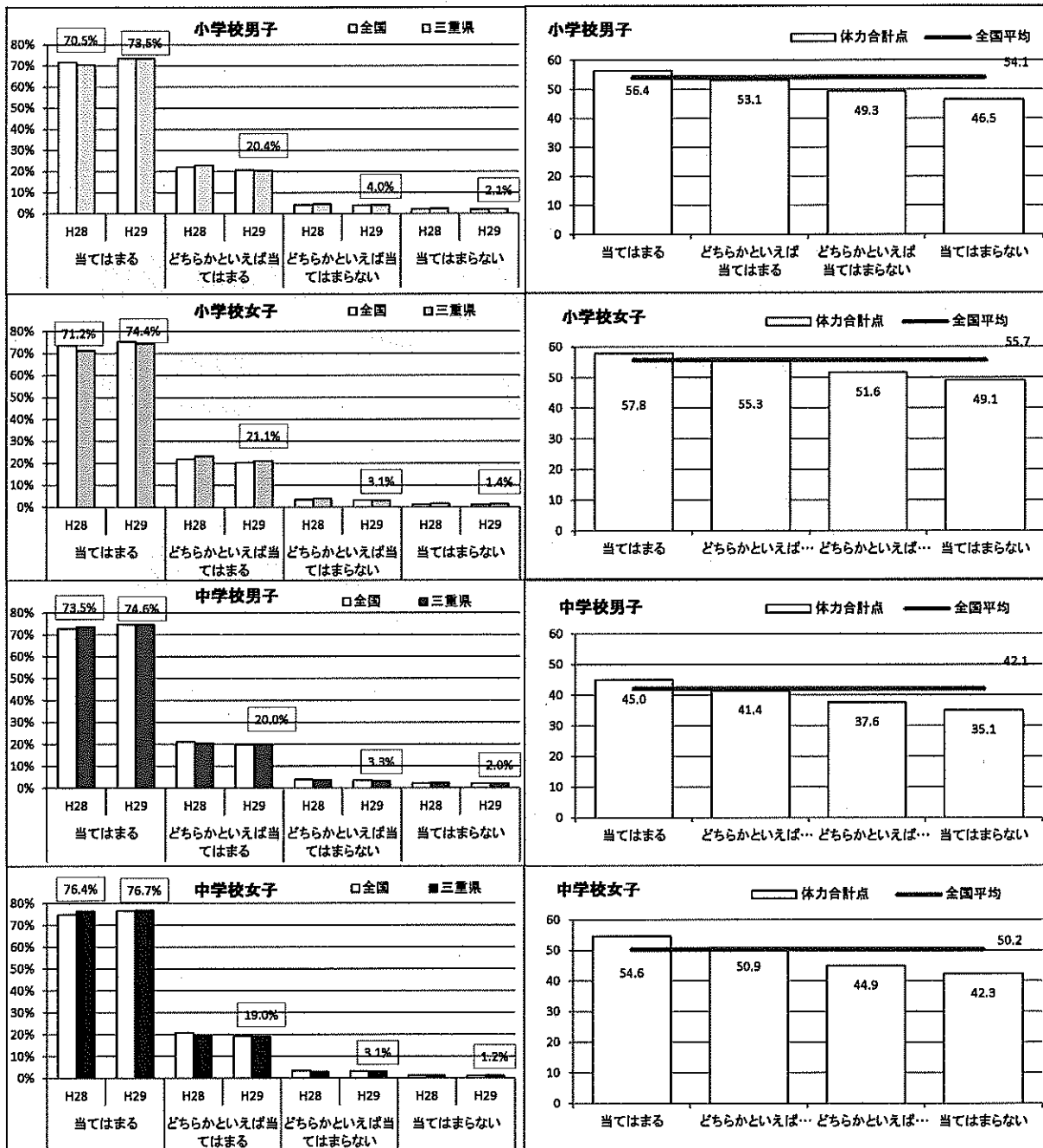
(ベネッセ「2018 スタディサポート」調査結果より)

○高校生の英語学習では、全国、三重県ともに「文法を理解すること」を苦手とする回答が最も多くなりました。

○英語を身につけることについては、「英語で日常的な会話をし楽しめるくらい」と考える高校生の割合が全国、三重県ともに最も高いものの、「英語を聴き取ること」「英語を話すこと」は苦手とする割合も比較的高くなっています。

③達成感

ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。

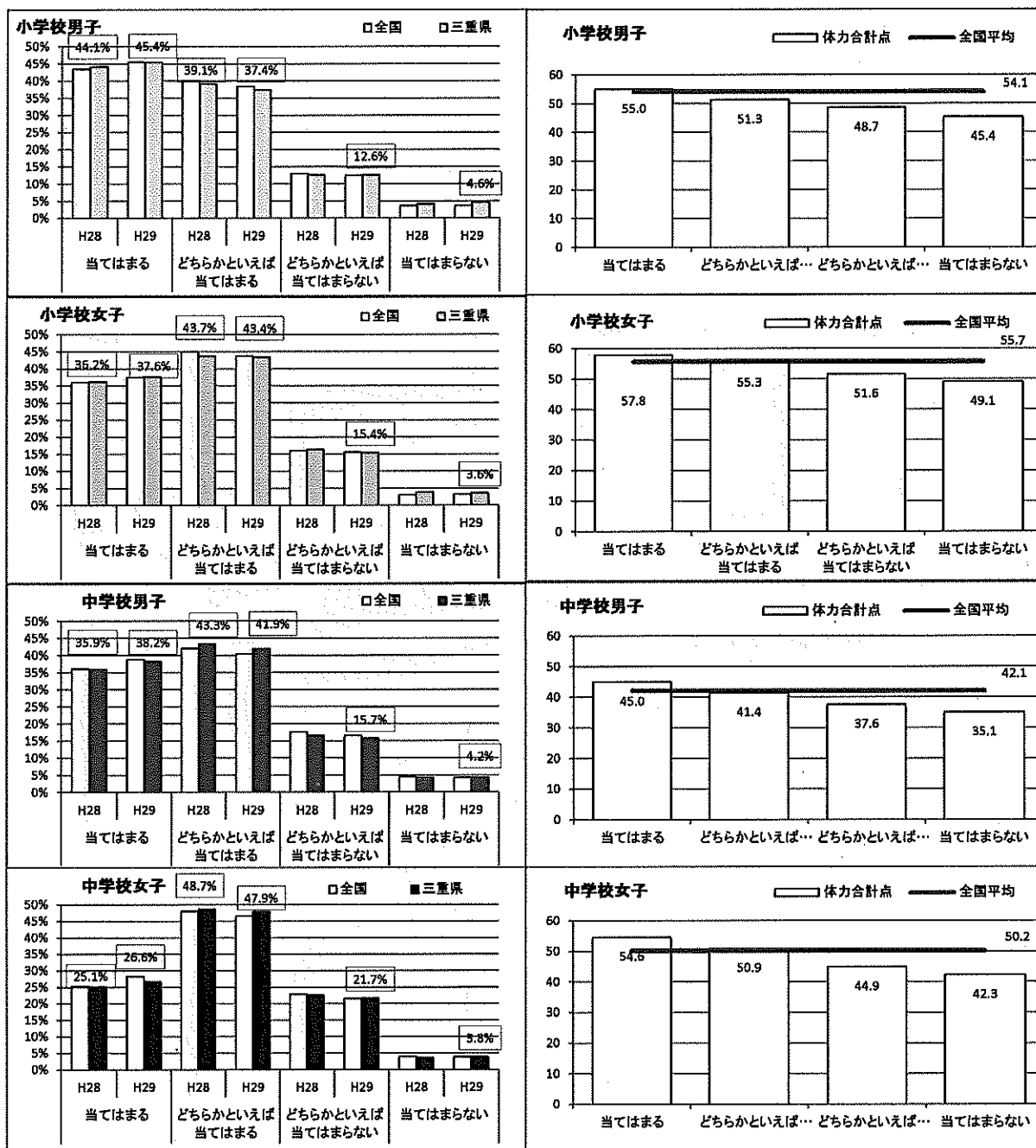


(三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より)

○「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と回答した児童生徒は体力合計点が高い傾向にあります。

④挑戦する気持ち

難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。



(三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より)

- 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していることについて、「当てはまる」と答えた児童・生徒は昨年度と比較して増加傾向にあります。
- 肯定的な回答をした児童生徒は体力合計点が高い傾向にあります。

(8) キャリア教育

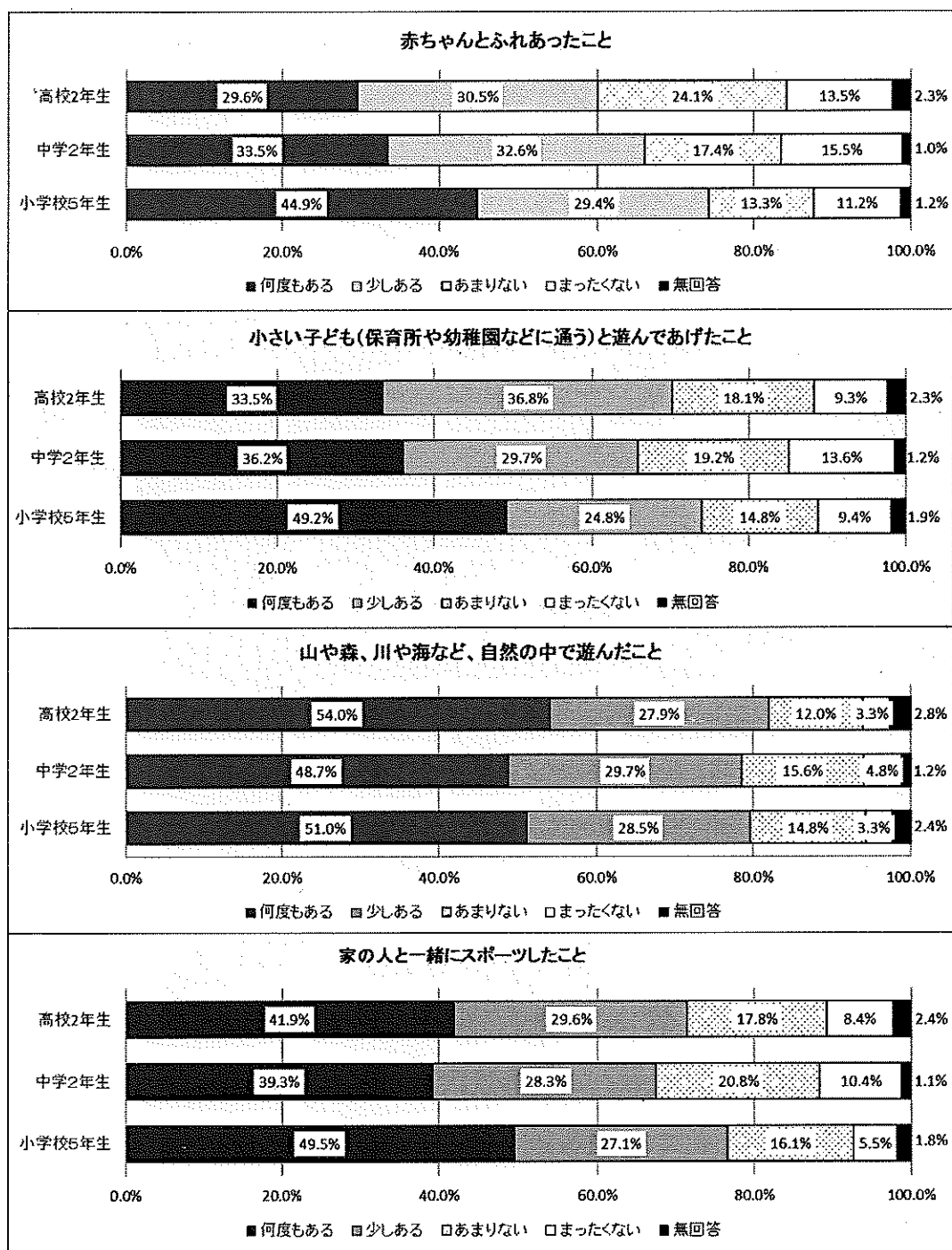
項目	結果				
・将来の夢や目標を持っている 【児童生徒質問紙】 ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導 【学校質問紙】	・肯定的な回答及び乖離（小学校）				
	小学校	H27	H28	H29	H30
	児童質問紙	85.3(-1.2)	83.7(-1.6)	84.4(-1.5)	83.7(-1.4)
	学校質問紙	68.4(-4.0)	77.7(3.1)	73.6(-2.1)	84.0(0.7)
	乖離	16.9[14.1]	6.0[10.7]	10.8[10.2]	-0.3[1.8]
	・肯定的な回答及び乖離（中学校）				
	中学校	H27	H28	H29	H30
	生徒質問紙	71.7(0.0)	71.0(-0.1)	71.2(0.7)	72.5(0.1)
	学校質問紙	98.2(1.8)	97.5(0.4)	98.8(1.3)	99.4(0.8)
	乖離	-26.5 [-24.7]	-26.5 [-26.0]	-27.6 [-27.0]	-26.9 [-26.2]
・中学校では、平成27年度以降大きな乖離が見られます。					

※（ ）内の数値は全国との差を、[]内の数値は全国の数値を示す。

(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

(9) 体験

あなたは、今までに次のようなことをどのくらいしたことがありますか。



(三重県「みえの子ども白書2016」(三重県子ども条例に基づく調査の結果概要)より)

- 赤ちゃんとおふれあった体験、小さい子どもと遊んであげた体験を持つ児童生徒の割合は、小中学校、高等学校ともに6割から7割程度です。
- 山や森、川や海など自然の中で遊んだ体験が何度もある児童生徒の割合は、小中学校、高等学校ともに約5割程度です。

(10) 子どもたちの規範意識の状況

項目	結果				
<p>・学校のきまり（規則）を守っている 【児童生徒質問紙】</p> <p>・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う 【児童生徒質問紙】</p> <p>・人の役に立つ人間になりたいと思う 【児童生徒質問紙】</p>	・ <学校のきまり（規則）を守っている> 肯定的な回答				
		H27	H28	H29	H30
	児童質問紙（小）	91.0(-0.1)	91.8(0.3)	92.8(0.2)	88.6(-0.9)
	生徒質問紙（中）	95.2(0.8)	95.9(1.2)	96.5(1.3)	96.0(0.9)
	・ 小中学校ともに、昨年度と比較すると、肯定的な回答の割合が減少しました。小学校では、全国を下回っています。				
	・ <いじめは、どんな理由があってもいけないこと> 肯定的な回答				
		H27	H28	H29	H30
	児童質問紙（小）	96.5(0.3)	96.8(0.2)	96.4(0.3)	97.0(0.2)
	生徒質問紙（中）	93.9(0.2)	93.7(0.1)	93.0(0.2)	96.2(0.7)
	・ 小中学校ともに、平成27年度以降、全国を上回っています。				
・ <人の役に立つ人間になりたい> 肯定的な回答					
	H27	H28	H29	H30	
児童質問紙（小）	93.7(0.0)	94.5(0.7)	92.8(0.3)	95.5(0.3)	
生徒質問紙（中）	94.1(0.4)	93.0(0.2)	92.7(0.8)	95.5(0.6)	
・ 小中学校ともに、全国を上回るとともに、肯定的な回答の割合が増加しています。					

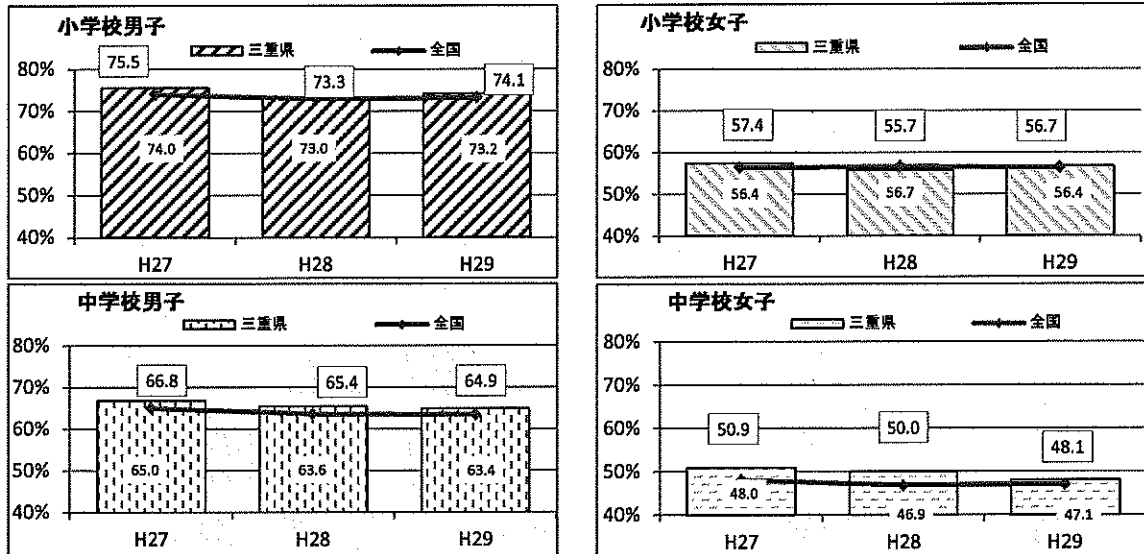
※（ ）内の数値は全国との差を示す。

(三重県「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果より)

(11) 児童・生徒の体育・保健体育に対する意識

運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。

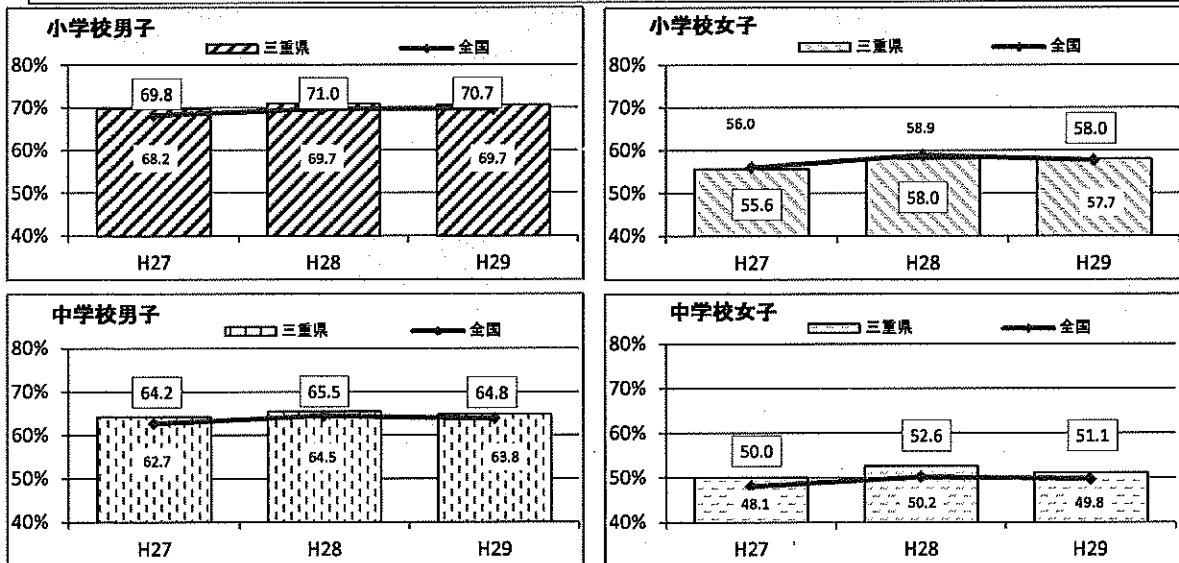
（好きと答えた割合：4択：好き、やや好き、ややきらい、きらい）



（三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より）

あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切なものですか。

（大切と答えた割合：4択：大切、やや大切、あまり大切ではない、大切ではない）



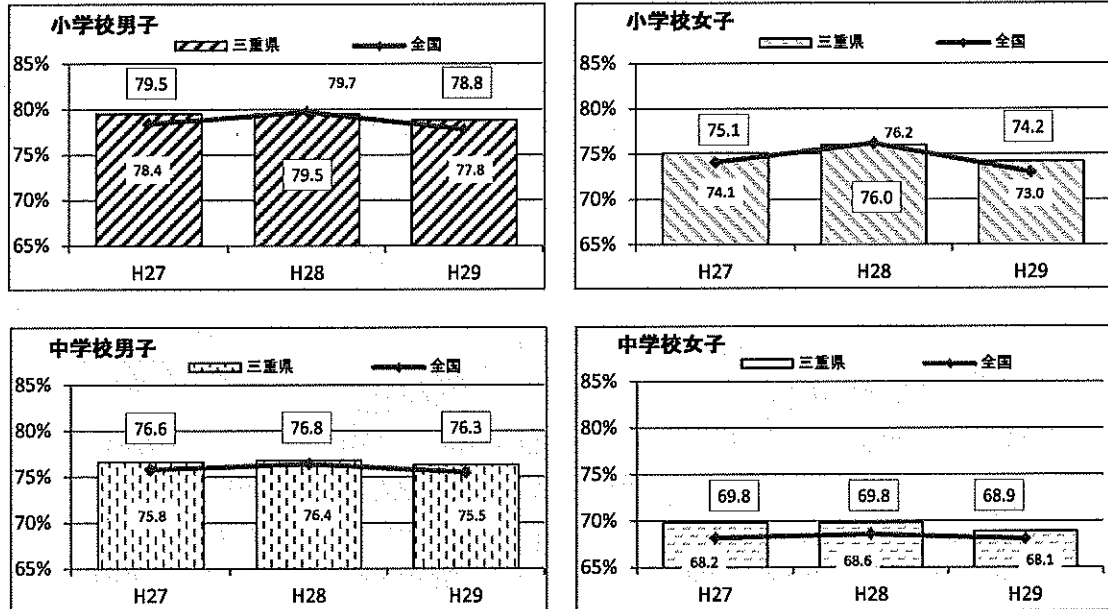
（三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より）

○運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツを好きと思うことや、大切なものと考えている児童・生徒の割合は、小学生女子は全国平均と同程度であるが、小学生男子及び中学生男子・女子は全国平均より高い状況となっています。

(12) 健康に対する意識

あなたが健康であるために、運動（体を動かす遊びをふくむ）は、どのくらい大切だと考えていますか。

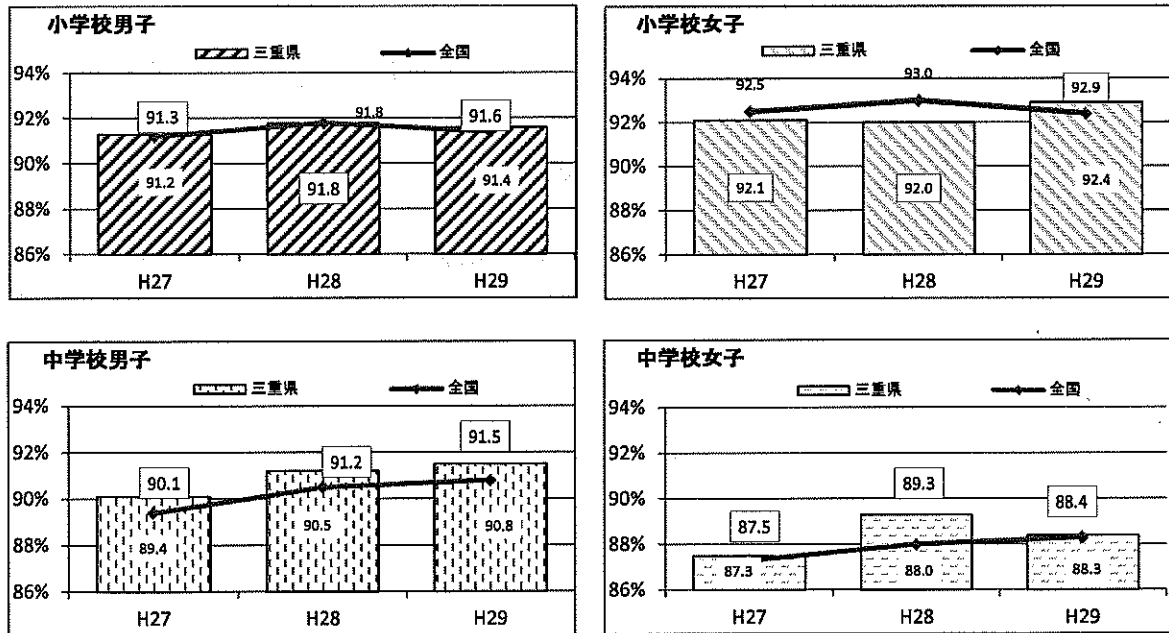
(大切と答えた割合：4択：大切、やや大切、あまり大切ではない、大切ではない)



(三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より)

あなたが健康であるために、食事をしっかり取ることは、どのくらい大切だと考えていますか。

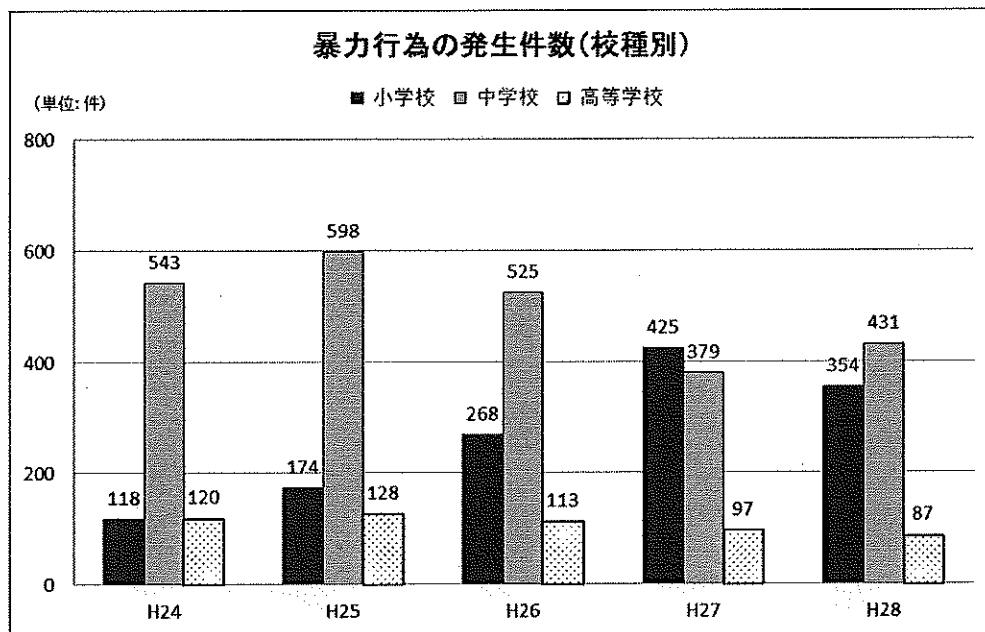
(大切と答えた割合：4択：大切、やや大切、あまり大切ではない、大切ではない)



(三重県「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要」より)

○健康であるために運動や食事が大切と考える割合は、小中学生とも約9割程度となっています。

(13) 暴力行為

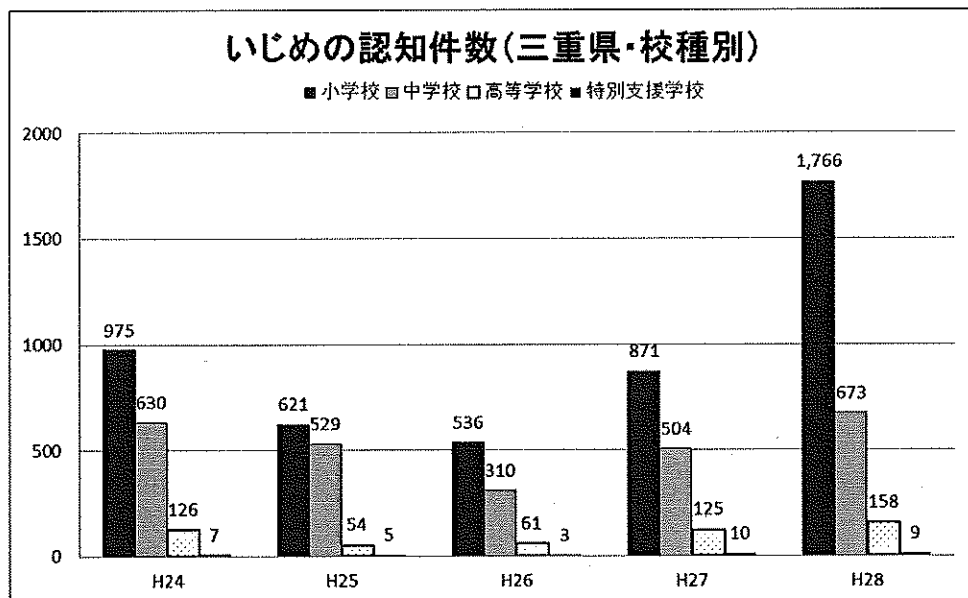


(三重県「平成28年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果【概要】より)

○平成28年度の暴力行為の発生件数は872件で、平成27年度と比較すると29件の減少となりました。(前年度比3.2%減)

○中学校での暴力行為については、衝動的なものや自分の感情をコントロールすることが難しく暴力行為におよぶケースの増加により、全体の発生件数も増加しました。

(14) いじめ

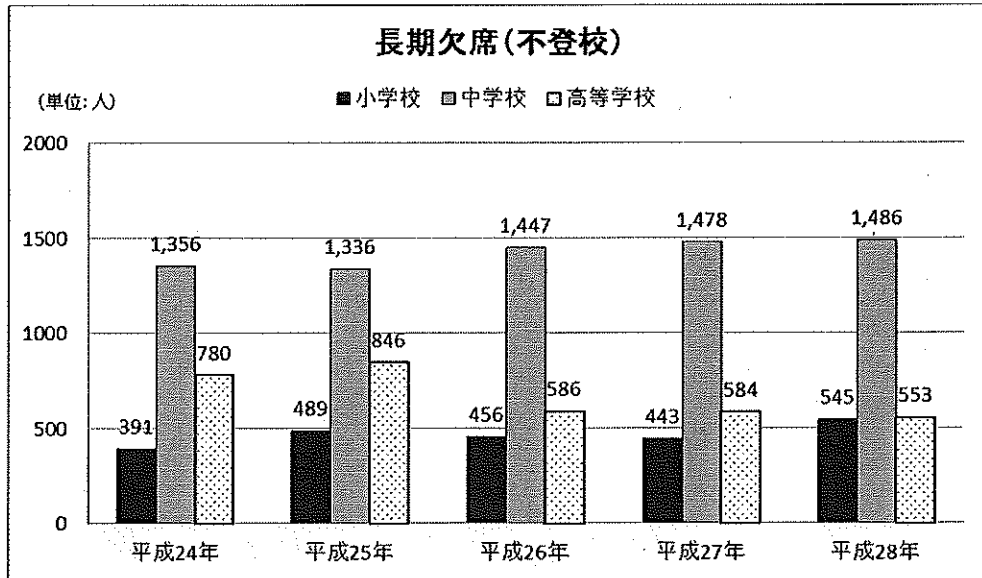


(三重県「平成28年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果【概要】より)

○いじめの定義をふまえ、積極的ないじめの認知を推進したことにより、平成28年度のいじめの認知件数は2,606件で、平成27年度と比較すると1,096件増加しました。(前年度比72.6%増)

○学校が把握したいじめの91.4%(前年度92.8%)が年度内に解消しました。

(15) 長期欠席（不登校）



(三重県「平成28年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果【概要】より)

○平成28年度の小中学校の不登校児童生徒数は2,031人で、平成27年度と比較すると110人増加しました。(前年度比5.7%増)

○平成28年度の高等学校の不登校生徒数は553人で、平成27年度と比較すると31人減少しました。(前年度比5.3%減)

○小学校については、生活環境の急激な変化等、家庭に係る状況が主な要因となっています。中学校では、入学時の環境の変化による不安や友人関係をめぐる問題により、1年生で急増することが主な要因となっています。高等学校については、学業の不振や進路への不安が主な要因となっています。

2 これからの時代に求められる力

(1) 学習指導要領解説総則編（「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編」（平成29年7月文部科学省）、「高等学校学習指導要領解説総則編」（平成30年7月文部科学省））

第1章 総説

1 改訂の経緯及び基本方針

(1) 改訂の経緯

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

こうした変化の一つとして、人工知能（AI）の飛躍的な進化を挙げることができる。人工知能が自ら知識を概念的に理解し、思考し始めているとも言われ、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかとこの予測も示されている。このことは同時に、人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるということの再認識につながっている。

このような時代において、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

このことは、本来、我が国の学校教育が大切にしてきたことであるものの、教師の世代交代が進むと同時に、学校内における教師の世代間のバランスが変化し、教育に関わる様々な経験や知見をどのように継承していくかが課題となり、また、子供たちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で、これまでどおり学校の工夫だけにその実現を委ねることは困難になってきている。

こうした状況を踏まえ、平成26年11月には、文部科学大臣から新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方について中央教育審議会に諮問を行った。中央教育審議会においては、2年1か月にわたる審議の末、平成28年12月21日に「幼稚園、小学校、中

学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下「中央教育審議会答申」という。）を示した。

中央教育審議会答申においては、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学習指導要領等が、学校、家庭、地域の関係者が幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割を果たすことができるよう、次の6点にわたってその枠組みを改善するとともに、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことなどが求められた。

- ① 「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
- ② 「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
- ③ 「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
- ④ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）
- ⑤ 「何が身に付いたか」（学習評価の充実）
- ⑥ 「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

これを踏まえ、平成29年3月31日に学校教育法施行規則を改正するとともに、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領を公示した。小学校学習指導要領は、平成30年4月1日から第3学年及び第4学年において外国語活動を実施する等の円滑に移行するための措置（移行措置）を実施し、平成32年4月1日から全面実施することとしている。また、中学校学習指導要領は、平成30年4月1日から移行措置を実施し、平成33年4月1日から全面実施することとしている。

(2) 改訂の基本方針

今回の改訂は中央教育審議会答申を踏まえ、次の基本方針に基づき行った。

① 今回の改訂の基本的な考え方

ア 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。

その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。

イ 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する平成20年改訂の学習指導要領の枠組みや

教育内容を維持した上で、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること。

ウ 先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

② 育成を目指す資質・能力の明確化

中央教育審議会答申においては、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要であること、こうした力は全く新しい力ということではなく学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力¹」であることを改めて捉え直し、学校教育がしっかりとその強みを発揮できるようにしていくことが必要とされた。また、汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育成してきた我が国の学校教育の蓄積を生かしていくことが重要とされた。

このため「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、

ア 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」

イ 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

ウ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされた。

今回の改訂では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理した。

¹生きる力：「変化が激しく、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい次代を担う子供たちにとって、将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要とされる力」である。
（中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学修指導要領の改善について」（平成20年1月17日）参照）

③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる。

今回の改訂では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める際の指導上の配慮事項を総則に記載するとともに、各教科等の「第3指導計画の作成と内容の取扱い」において、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることを示した。

その際、以下の6点に留意して取り組むことが重要である
ア 児童生徒に求められる資質・能力を育成することを目指した授業改善の取組は、既に小・中学校を中心に多くの実践が積み重ねられており、特に義務教育段階はこれまで地道に取り組まれ蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はないこと。

イ 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進めるものであること。

ウ 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質を向上させることを主眼とするものであること。

エ 1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。

オ 深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができる

ようにすることこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。

力 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その確実な習得を図ることを重視すること。

④ 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。以下同じ。)、問題発見・解決能力等)や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる。これらの取組の実現のためには、学校全体として、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが求められる。

このため総則において、「児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以「カリキュラム・マネジメント」という。)に努める」ことについて新たに示した。

(2) Society5.0²の実現に向けた人材育成～社会が変わ

わる、学びが変わる～（「Society5.0に向けた人材育成に係る

大臣懇話会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスク
フォース」（平成30年6月5日 文部科学省）

第1章 Society 5.0 の社会像と求められる人材像、学びの在り方

（「Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会」における議論を踏
まえて）

2. Society 5.0 において求められる人材像、学びの在り方

(1) 新たな社会を牽引する人材

Society 5.0 を牽引するための鍵は、技術革新や価値創造の源と
なる飛躍知を発見・創造する人材と、それらの成果と社会課題をつ
なげ、プラットフォームをはじめとした新たなビジネスを創造する
人材であると考えられる。

異分野をつなげることでエコシステムを創造するプラットフォーム・ビジネスの形態は、巨大な規模を持たなくとも、発想次第で新たな価値を創造することができる。このようなプラットフォームを創造できる人材には、異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするアントレプレナーシップ³が欠かせない。また、課題解決を指向するエンジニアリング、デザイン的発想に加えて、真理や美の追究を指向するサイエンス、アートの発想の両方を併せ持つ必要がある。これらの資質・能力に加えて、多くの人を巻き込み引っ張っていくための社会的スキルとリーダーシップが不可欠となる。新たな価値を創造するリーダーであればこそ、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観が一層重要となる。

Society 5.0 において、我が国の強みを十分に活かすには、一握りのスーパースターがいるだけでは不十分である。各分野においてものづくりやサービスを担ってきた人材が、AI やデータの力を最大限活用しながら様々な分野に展開していくことが不可欠となる。他方で、こうした人材は、Society 5.0 における社会の変化に最も影響を受けると考えられる。産業構造の目まぐるしい変化により、必要な能力・スキルが刻々と変わり続ける中で、企業に雇われない自営的就労を行う労働者には、常にスキルをアップデートし、また新たな分野のスキルを身に付けられるよう自ら学び続ける力が決定的に重要となる。

文化、芸術、スポーツ等の人間の創造力により生み出し、人々の共感を生み発展し続けてきた分野は、ますます社会に求められるも

² Society5.0：狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

³アントレプレナーシップ（entrepreneurship）：企業家精神。新しい事業の創造意欲に燃え、高いリスクに果敢に挑む姿勢

のとなるだろう。人間が根源的にもつ力を発揮して新たな価値を創造し、ドラマや感動を生むこれら職業は、AI やロボティクスによっては決して代替できないものである。むしろ、先端技術を取り入れ使いこなすことで、新たな地平が切り拓かれていく。

(2) 共通して求められる力

Society 5.0 において我々が経験する変化は、これまでの延長線上にない劇的な変化であろうが、その中で人間らしく豊かに生きていくために必要な力は、これまで誰も見たことのない特殊な能力では決してない。むしろ、どのような時代の変化を迎えるとしても、知識・技能、思考力・判断力・表現力をベースとして、言葉や文化、時間や場所を超えながらも自己の主体性を軸にした学びに向かう一人一人の能力や人間性が問われることになる。

特に、共通して求められる力として、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力が必要であると整理した。

まず、知識・技能としての語彙や数的感覚などの学力の基礎に加え、人間の強みを発揮するための基盤として、文章や情報を正確に理解し、論理的思考を行うための読解力や、他者と協働して思考・判断・表現を深める対話力等の社会的スキルなど、読み解き対話する力が決定的に重要である。

また、人と機械が複雑かつ高度に関係し合う社会となっていく中、科学的に思考・吟味し活用する力が不可欠となる。機械を理解し使いこなすためのリテラシーや、その基盤となるサイエンスや数学、分析的・クリティカルに思考する力、全体をシステムとしてデザインする力がこれまで以上に必要な力となる。

加えて、現実世界を意味あるものとして理解し、それを基に新たなものを生み出していくことは、AI によって代替できない人間ならではの営みであり、AI の活用分野が爆発的に広がっていく新たな時代においてますます重要となる。自然体験やホンモノに触れる実体験を通じて醸成される豊かな感性や、多くのアイデアを生み出す思考の流暢性、感性や知性に基づく独創性と対話を通じて更に世界を広げる創造力、苦心してモノを作り上げる力、新しいものや変わっていくものに対する好奇心や探求力、実践から学び自信につなげていく力などが重要である。

3 これからの時代の学校

(1) Society5.0の実現に向けた人材育成～社会が変わ

る、学びが変わる～（「Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇話会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース」（平成30年6月5日文部科学省））

第1章 Society 5.0 の社会像と求められる人材像、学びの在り方

（「Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会」における議論を踏まえて）

2. Society 5.0 において求められる人材像、学びの在り方

(3) Society 5.0 における学校

Society 5.0 における変化は、我々が受動的に対応するものだけではない。AI 等が本格的に普及していく中で、教育や学びの在り方に変革をもたらすだろう。

例えば、教育用 AI が発達し普及していくことにより、AI が個人のスタディ・ログ（学習履歴、学習評価・学習到達度など）や健康状況等の情報を把握・分析し、一人一人に対応した学習計画や学習コンテンツを提示することや、スタディ・ログを蓄積していくことで、個人の特性や発達段階に応じた支援や、学習者と学習の場のマッチングをより高い精度で行うことなどが可能となるだろう。

ただし、子供たちはデータから必ずしも読み取れない多様な可能性を秘めている。データに過度に依存することで、一人一人の成長や変化が正当に評価されない等の危険性も指摘されている。一人一人の個性やプライバシー等を大切にして、ビッグデータの限界や倫理的課題と常に向き合いながら、その活用を図っていくことが重要であろう。

このような技術の発達を背景として、Society 5.0 における学校は、一斉一律の授業スタイルの限界から抜け出し、読解力等の基盤的学力を確実に習得させつつ、個人の進度や能力、関心に応じた学びの場となることが可能となる。また、同一学年での学習に加えて、学習履歴や学習到達度、学習課題に応じた異年齢・異学年集団での協働学習も広げていくことができるだろう。

さらに、学校の教室での学習のみならず、大学（アドバンスト・プレイスメントなど）、研究機関、企業、NPO、教育文化スポーツ施設、農山村の豊かな自然環境などの地域の様々な教育資源や社会関係資本を活用して、いつでも、どこでも学ぶことができるようになる予想される。

こうした多様な学びが関連し合うことで更なる学びの発展にもつながるだろう。AI やビッグデータ等の先端技術が、学びの質を加速度的に充実するものになる世界：Society 5.0 における学校

（「学び」の時代）が間もなく到来する。

Society5.0の社会像・求められる人物像、学びの在り方 (Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会の議論を踏まえて)

Society 5.0の社会像

A I 技術の発達 ⇒ 定型的業務や数値的に表現可能な業務は、A I 技術により代替が可能に
⇒ 産業の変化、働き方の変化

日本の課題

A I に関する研究開発に人材が不足、少子高齢化、
つながりの希薄化、自然体験の機会の減少

人間の強み

現実世界を理解し意味づけできる感性、倫理観、
柔軟みや想定外と向き合い調整する力、責任をもって遂行する力

Society 5.0における学びの在り方、求められる人材像

A I 等の先端技術が教育にもたらすもの ⇒ 学びの在り方の変革へ

(例) ・スタディ・ログ等の把握・分析による学習計画や学習コンテンツの提示

・スタディ・ログ蓄積によって精度を高めた学習支援 (学習状況に応じたコンテンツ提供、学習環境マッチング等)

学校が変わる。学びが変わる。⇒ Society5.0における学校(「学び」の時代)へ

- ・ 一斉一律授業の学校 → 読解力など基盤的な学力を確実に習得させつつ、個人の進捗や能力、関心に応じた学びの場へ
- ・ 同一学年集団の学習 → 同一学年に加え、学習到達度や学習課題等に応じた異年齢・異学年集団での協働学習の拡大
- ・ 学校の教室での学習 → 大学、研究機関、企業、NPO、教育文化スポーツ施設等も活用した多様な学習プログラム

共通して求められる力：文章や情報を正確に読み解き対話する力

科学的に思考・吟味し活用する力

価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力

新たな社会を牽引する人材：技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材

技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材
様々な分野においてA I やデータの力を最大限活用し展開できる人材 等